

●日本生態学会大会のジュニア発表に中西康太君(大住中学2年生)が参加、高校生ポスター発表部門の出展者82人(中学生・5団体)でした。学期末テストと発表準備が重なり大変でした。原稿を持たないで説明を行う規定なので、京田辺からの電車の中でも口頭説明を繰り返し確認するなど、相当苦勞をされました。そしてポスターに関心を持つ人が通りがければ、声をかけて「説明いたしましょうか」と話しかけなければなりません。見も知らない人に声をかけて聞いていただくことになり、このような気遣いと勇氣も必要です。なかなかこのような経験体験の場は考えられないことで、中西君はここで大きく成長できたのではないかと思います。長期にわたる調査の継続整理観察結果のまとめ、すごい積み重ねと文章などご苦勞さまでした。本当によく頑張っていたいただきました。

当日会場での支援に桜谷先生、深田、金田、中西さん

が参加して、応援をいただきました。先週にもお知らせしましたが、発表前の1週間は、多くの方々の集中した応援で、ポスター制作が進みました。金田さんは度々来られ準備作業を手伝っていただきました。深田さんは地元での会議が終了した後にも、事務所に顔を出して、激励を続けました。そのほか多くの皆さんが出来ることは手伝うと資料や写真の提供があって、素晴らしいポスターが完成しました。特に中西佳代さんには、木津川河川レンジャーのまとめ役が回ってきたので、そちらの役目も果たしながら、最後の製作の追込みに全時間をつぎ込んで、製作に没頭していただきました。応援部隊の頑張りもさることながら、中西さんの感性を生かしたポスター制作は素晴らしいものでした。桜谷先生が金曜日にお越しいただいて、全体的なチェックをいただいて、急所の資料を挿入するなどポイントのご指導をいただきました。

私たち京都南部に住んでいるものにとって、日ごろ神戸を意識していませんので、アクセスについてあまり自信がなく、初めての会場なので、かなり不安でした。ここで、神戸や兵庫県に詳しい深田さんがいろいろヒントを出してくれたので、戸惑うことなく開場時間に揃って到着できました。

当日に遠方からお越しの皆さんや里山の会に関心を持っていただく先生方にお渡しする資料などの持ち込みが重たくて大変でした。何よりも19時に事務所を閉じてから、最後の最後にポスターの張り合わせにと出来栄えに気を配って午前3時までご奮闘いただいた中西佳代さんには最後まで粘り強く仕上げていただきました。心からお礼を申し上げます。

●親子花見乗船体験 大勢のご参加を お誘い下さい 3月31日(日) 桜の開花は例年より少し早いとの情報があります。3月中に満開ということもあるかもしれません。去年は春休みの最終日曜日で好天気だったのですが、桜が散っていて人影が寂しい取組になりました。今年はその教訓から3月の末日に開催日を移動しました。きっと満開の花の下での乗船体験が楽しめると思います。昨年までは、田辺府営団地連合自治会が応援を買って出てくださいましてカヌーやEボート乗船への乗り降り場の建設を受け持って組み立てていただきました。寄る年波には勝てず、お手伝いは出来ないとの返答がありましたので、貯水が始まる直前の27日(水)の午後1時から階段の設置と乗り降り場の設置作業を行います。これがこの取り組みの最大の難関作業になります。これが完成すると一安心です。そして時間があれば馬坂川のごみ拾いを行います。あとは当日の午前8時30分ごろのスタッフ集合になり、土曜日にはEボートを寝屋川市の摂南大学からの運び込み、金曜日にはカヌーの運搬になり、当日のスタッフの昼食準備、などになります。今回は木津川河川レンジャーと里山の会との共催事業になります。多くの皆さんのご参加をお待ちしております。ご案内をしてください。

●カスミサンショウウオの卵嚢が史上最高の 40 個になる。神戸での発表の翌日、カスミサンショウウオ観察に情熱をそそいでいただいている金田さんと太田さんは調査観察に朝早くから出かけていただきました。これまでは流入する水が濁っていたので、正確に数えることが難しく苦勞をしていたのです。しかし今年はきれいな水なので、比較的に見つけやすくなっています。それにしても昨年は 24 個だったのに今年は 40 個という数に驚きです。もう少しの期間が産卵期といわれているので、大いに期待したいものです。

●第 2 回目の木津川流域クリーン大作戦 2 月 17 日（日）816 名の参加（昨年は 661 名、）参加団体 55、（昨年 39）に発展して取り組まれました。この取り組みはやましろ里山の会が木津川の植物を調べているときたばこの吸い殻や空き缶等きれいな花が咲く横に沢山放置されていたので、拾って歩き、清掃ウォークを設定し、京田辺市生活学校の皆さんの協力を得て始めたのが始まりで、レンジャーに任命されて、沿川ポイントに実施案内のポスターで呼びかけて京田辺市域から沿川に拡大してきました。そして河川レンジャーのメンバーも多く誕生してポイント拠点方式に進んできたのです。そして、協力団地や参加団体も増加し、きれいな木津川の実現に向かって行動の輪が広がってきました。ただ一年に一回のごみ拾いで終わらせるのではなく、ゴミ拾いをしなくてもいい地域の実現にどう立ち向かっていけるのかを大きな目標に向かってほしいものです。

●会誌 46 号の原稿締め切り日の 3 月 20 日が過ぎました。現在原稿の集まりが少しなので、ぜひ大急ぎでお寄せ下さい。昨年の異常な気候。災害の連発、台風の上陸それによる災害、いずれも想像を超えるものでした。そして大地震の発生も緊急の課題となってきています。激動の時代でしょう。いじめ自殺いじめ殺しなど人の命を軽んじる時代になり、何かが大変化していると思われます。そして高齢化と人口減少、身近なところに何かがおかしいと感じるこの頃です。こうした問題について一言ものを申してみてください。

●来る 2020 年は里山の会が結成されて記念の年になります。4 半世紀の歩みをすすめてきました。ふさわしい 1 年にする企画が必要です。皆様のアイデアを届けていただきたいのです。ことし 2019 年は前年なので、諸準備を介しなければ「ドロ縄」になり不十分な節目では不満が残ります。知恵をお寄せください。

●京都大学の竹門康弘先生から木津川における中聖牛の設置の研究に基づく協力要請がありました（3 月 19 日・月）。里山の会からは播川理事長、大村副理事長、深田前理事長、山村常務理事がお話をお聞きしました。これまでの 3 回の蛇籠製作や蛇籠の設置はその成果や効果がどういったものかという基礎的な研究試行でした。今回は聖牛群を実現してその効果についての研究経費が計上された。これまでとは違って成果をどのように活用出来るかの研究を行い、異なった条件で活用できるものの研究になるので、大きな意義があるものと説明がありました。お話を聞いて積極的な協力を行なおうと 20 日の事務局会議で議論しました。ことしからは摂南大学や京都大学など学生の参加を呼びかけたいとのことでした。

●3 月植物観察会 3 月 22 日（金）9 時半 八幡背割り堤駐車場集合

詳しいことは里山の会ホームページ トップページをごらんください。